初期平安京の復原

— 都城の思想と大型将棋との関係性 —

高見友幸 大阪電気通信大学 総合情報学部

キーワード:初期平安京,摩訶大将棋,大型将棋,大極殿,宮城図

1 はじめに

古代日本には現代将棋よりずっと駒数の多い大 型将棋の存在したことが知られている. 最近の研 究では、大型将棋は遊戯であるとともに、呪術と しての役割をもつこともわかってきた[1,2]. 大型 将棋の駒には陰陽五行思想が明確に現れ, 各駒を 六十干支の表に組み込むことができる. つまり, 将棋は本来的に呪術性をもつものとして作られて いる. また、大型将棋の将棋盤については、平安 京の条坊の1保を将棋盤の1マスと見ることで, 平安京と将棋盤が完全に一致するという発見がな されている[3,4]. 図1と図2に, 大大将棋と摩訶 大将棋の将棋盤と平安京の条坊との一致を示した. では、このように将棋盤と平安京とが一致するの はどういう理由によるのか. この理由を平安京の 条坊そのものがもつ呪術性に求めたのが本研究で ある.

ところで、平安京の条坊が示す呪術性は、造営 当初の平安京にだけ見ることができるということ に注意されたい. 現状の平安京研究においては、 平安京の条坊の数や道幅は、造営当初においても、 そのあとの時代においても変化することなく同じ だとされる. 将棋史研究における我々の当初の研究では、将棋盤と平安京との一致が示す理由がよ くわからなかった. しかし、初期平安京の存在を 仮定し、平安京の条坊が途中で変化したと見れば、 平安京と将棋盤の一致を、当時の思想背景とも照 らし合わせて明解に説明できた次第である.

本論に先立ち、本研究の結論となる初期平安京の復原結果を図3に示した。平安京の北辺の大路(新一条大路と記載した)および南辺の大路(九条大路)は点線としているが、これらの点線部分を含めた領域が、延喜式に記載された、10世紀以

降の平安京(南北19保,東西16保の大きさ)である. 我々が提起する初期平安京は,この後世の平安京よりも北辺は1保,南辺は2保だけ短いと結論する. 本論文では,紙数および発表時間の都合上,初期平安京の北辺についてのみ議論するが,その前に,次節において,北辺と南辺,両方の変更を含んだ初期平安京の全体像を述べておきたい.

2 初期平安京の概要

初期平安京において、まず注目すべきことは、 平安京全体の大きさである.図3には各大路の道幅が示されており、この記載からも確認できると おり、南北および東西の長さは同じ1500丈となっている.

延期式では東西 1508 丈とするが、この点は考古学からの修正がなされており、東西 1500 丈で正しい. したがって、本研究で提起した図3の復原結果で議論となるのは、南北方向の大きさである. さて、我々の初期平安京には、次の仮説が含まれる.

- 1) 北辺は後述する瀧浪説の基本案に従う. 一 条大路(後世の土御門大路)を北端とする.
 - 2) この一条大路の幅を17丈とする.
 - 3) 南端を八条大路とする.
 - 4) この八条大路の幅を 28 丈とする.

前述したとおり、上記1)と2)は本論文にて議論するが、3)と4)は別稿とする. 北端南端の道幅の評価が重要となるが、一条大路(土御門大路に相当)、八条大路とも考古学的知見はまだ見つけられていない. また、平安京の条坊の幅は、単に数値そのものが意味をもつことに注意されたい. 4、8、10、12、17、28 丈という数値は、四象、八卦、十干、十二支、二十八宿といった呪術要素と

関連するだけであり、都市設計の観点とは無縁な のである.

一条大路の幅の候補は、次節で示すとおり 17 丈の可能性が高い.この他の候補としては、10、12、28 丈しかないであろう.残る八条大路を 28 丈として設計することで、初期平安京は1辺が1500 丈の正方形の都となる.この妥当性については、少し後で述べる.

さて,一辺 1500 丈は,藤原京の大きさと一致する.実は,藤原京も一辺 1500 丈の正方形である. ただし,用いられている尺度は,高麗尺(1 丈=3.55m)である.したがって,京域の実際の大きさは違うことに注意されたい.

さらに、平城京についても、1500 丈という同じ値を取り出すことができる。平城京の場合、東側に広い張り出し部分があるため正方形の抽出はできないものの、北西側への小さな張り出しを除いて考えると、やはり、南北の長さは1500 丈になっている1).

このように、藤原京、平城京、平安京が結果的には、南北に1500 丈をもつと想定すれば、上で述べた一条大路17 丈、八条大路28 丈という値は、非常に妥当であろう. 京域全体が1500 丈という以外にも、平安宮の南北がともに17 丈の大路で区切られているという点、28 丈の朱雀大路がそのまま南端の大路の28 丈となって続くという点でも妥当なのである. つまり、初期平安京は、京域を1500 丈の正方形にするという絶対的設計方針に基づいているのではないだろうか.

ところで、初期平安京では、九条大路に面する 東寺と西寺が京域の外に出る。東寺と西寺だけが 特別だったのではなく、初期平安京の内部に一切 寺院を置かなかったということである。これは、 後述するように、平安京が道教の思想に強く帰依 する都であることとも符合する。仏教は平安京から排除されていたであろう。東寺と西寺が官寺だったことは文献からわかるが、この二寺が平安京の中に建てられたとする説明は、当時の古文書に はないのである。

平安京が正方形という形に設計されている以上, 平安京の四至は重要である.しかしながら,考古 学の知見からは,初期平安京においては,南西隅 近傍、南東隅近傍、西京極大路等は条坊が造設されていなかったことがわかっている[5]. そうであるならば、1500 丈の正方形は設計上だけということだったのか. これについては、初期平安京の南辺を議論する別稿に譲るが、平安京の四至が重要視されているいくつかの傍証がある. 初期平安京は、まさに正方形を厳密に意識した都だったと考える.

3 初期平安京の北辺

平安京の条坊や平安宮内部の様相は、延喜式の記載や宮城図等によって伝わる。それらの文献から得られる情報は、初期平安京の形態を示すものかどうかは不明であるものの、発掘調査で得られる知見と合致することも多い。

初期平安京の北辺については、注目すべき仮説が瀧浪貞子氏から提起されている[6]. 当初の平安宮は南北に2町分短く(平安京の大きさは同じ)、平安宮の北端は今の土御門大路だったとする説である(以下、瀧浪説). また、平安京自体が南北に2町分短かったという見方もあり[7]、この場合、平安宮は北闕型(平安宮が平安京の北端に位置する形態)となる. しかしながら、関連学会では、以上の仮説は多数派ではない. それは、仮説の論拠となる文献資料が少ない点、考古学的知見が得られていない点が大きい.

本研究は、造営当初の平安京が延喜式や宮城図とは異なる形態だったとする瀧浪説が出発点となっており、瀧浪説の創案に負うところが非常に大きい、瀧浪説の論拠のひとつに、初期の平安宮が十二門だったとする指摘がある。この指摘は前節で述べた正方形の初期平安京とも関連し、非常に説得力を持つ。つまり、初期平安京や瀧浪説に見られる都城の形態的特徴は、「周礼」に記述された都城のあり方と合致するとともに、後でみるように、都城の思想をも表現するものである。

3.1 初期平安京の朝堂院

図4に朝堂院の寸法を示した. 図4の左図の復原は発掘調査と古絵図(陽明文庫本「宮城図」)から得られた結果である[8,9,10]. このうち, 二条大路北端(平安宮の南端)から昭慶門までの距離 200丈, 大極殿から昭慶門までの距離 18 丈, 朝堂院

の東西幅 64 丈は,遺構の実測に基づく値である. 大極殿院の東西幅 42.4 丈は,遺構の計測値と古絵 図の記載を合わせて推定された値である. 200 丈 という完数の計測から,昭慶門の位置は意図され た設計であると判断されている.

ところで、この200 丈という値が大極殿とは関係のない長さ(朱雀門から昭慶門までの長さ)に現れていることが大きな疑問であろう.200 丈が設計上にあるのだとすれば、それは大極殿の位置において使われるべきではないか.同じく、大極殿院の東西幅 42.4 丈という長さも非常に不自然な値である.平安京で最も重要な建造物に整数値でない長さが現れるのだろうか.大極殿から昭慶門までの長さ 18 丈も、呪術要素のない数値という点では不自然である.

さて、このように数々あがる問題点の原因は、 図4左図の朝堂院の復原が、再建された後世の朝 堂院に基づく結果であることによると考えた. も し当初に創建された朝堂院が復原されているのだ とすれば、その設計思想、つまり、都城の思想が 明確に現れるはずである.

3.2 朝堂院の復原

本研究が試みる復原においては、平安京の地面を計測する物差し A (1 $\pm 2.98m$) とは別に、朝堂院の建物に使われた物差しXの存在を想定する.なお、この物差しXは、後述のとおり、その存在を検証できるものであることを強調しておきたい.

ところで、発掘調査からは、大極殿と昭慶門の距離は 18 丈であるとされる[8]. この値は、宮城図に記載される、1 間=1.2 丈 (= 1.2×2.98 m) という情報も考慮の上で導出されたものである. つまり、宮城図に記載の、間と丈の換算を、通常の物差し A によるものと想定している. 本論文では、宮城図の朝堂院の建物部分に限っては、別の物差しX が使われていたと考えた. つまり、この物差しX を使った場合、物差しA で測る 15 間 (=18 丈) は、図 4 右図のとおり、17 丈になると仮定した.

18 丈が 17 丈に換算されるということは,物差 $\cup X$ の目盛りは物差 $\cup A$ の目盛りよりも小さく, その比率は 18 分の 17 でなければならない.つまり,物差 $\cup X$ は, 1 丈=2.81m である. 計算におい

ては、朝堂院の遺構の実測値および宮城図の記載値 (建造物に関するもののみ)をすべて 18 分の 17 倍として換算すればよい.図4右図と図5右図に、この結果を示した³⁾. 大極殿から昭慶門までの長さ18 丈は17 丈、大極殿院の東西幅42.4 丈は40 丈、朝堂院の東西幅64 丈は60 丈と換算される.

会昌門から東西に延びる回廊は、宮城図では、21間(=23.8 丈)と記載されており(図5左図)、これから会昌門の領域は12.4 丈と推定される(図5右図).会昌門から昭慶門までの距離を120丈と想定した場合、宣政門から南に会昌門まで延びる回廊は、33間(37.4 丈)、宣政門から昭慶門までの回廊の長さの合計は、31間+16間+15間(35.1丈)であり、これから宣政門の領域は、やはり同じ12.4 丈となる。この結果は、宮城図の記載(両門とも同じ5間と記載)とも合致する。このことから、直接の寸法の換算はできないが、会昌門と昭慶門の距離は120丈と見てよいであろう。

また、この値 120 丈の妥当性は、宮城図の図面の直接の長さ計測からも推定可能である.つまり、昭慶門から龍尾壇は約 14.5cm で描画されており、これを 40 丈と見よう. 龍尾壇から会昌門は約 29cm であり (つまり、80 丈である)、会昌門と昭慶門の距離が 120 丈であることを支持する. 宮城図の図面は、このように、図面計測からの情報もある程度の信頼性を置けるものと考える.

また、会昌門から応天門の楼閣までを測ると約14.5cm であり、この部分も同じく 40 丈に設計されているであろう.会昌門より南側には、瓦垣 28.5 丈と南北回廊 8 間の記載があるが、これに、東西回廊の幅の長さと楼閣の長さを考慮すれば、記載される数値データからもほぼ 40 丈と推定可能である.

朝堂院内に南北に並ぶ建物の間隔は、発掘調査からおおよそ40丈の値が得られている.したがって、朝庭は、北を龍尾壇、東西を昌福堂と延久堂で区切られた一辺 40 丈の何もない広場として存在するわけである. 朝堂院内の建物の位置は発掘調査からの推定であるが[9]、朝堂院の門の位置は仮説を前提に導かれている. 図 5 右図に示されるとおり、会昌門の長さと、すぐ前のふたつの建物

間の間隔がほぼ一致することや,回廊の東西にある門(宣政門等)の前がちょうど建物のない場所となることは,物差し X の仮説を支持するものとなっている.

3.3 平安宮の復原

前節で述べたように、朝堂院には 40 丈という寸法がしばしば現れる.これは、一辺 40 丈の5つの正方形(大極殿院、朝庭、朝堂院、朝集殿院、朱雀門広場)が存在するためである。考古学からの知見として、昭慶門から朱雀門までの距離はちょうど 200 丈の完数値を示すことがわかっているが、これは、昭慶門を 200 丈の位置に設計したものではなく、昭慶門から朱雀門までの間に 40 丈の5つの正方形を敷き詰めた必然の結果だったわけである。

平安京設計時の完数値があるとすれば、昭慶門の位置ではなく、平安京の最重要建造物である大極殿の位置にこそ見えるべきであろう. しかしながら、現状でわかっている大極殿の位置に完数値は見られない. 大極殿はしかるべき位置に建てられているべきであるという要請が、初期平安京を復原する上での前提となった. では、大極殿が立つべき位置はどこなのか. この要請に対しては、平安京および平安宮が正方形の造形を意図した設計のもとにあることを重要視した次第である.

上の要請からは、現状の復原は、後世の平安宮の復原であり、初期の平安宮の復原ではないと考えざるを得ない。当初は、平安京も平安宮も、きちんとした正方形に造営されていたと考えたい。その結果として、大極殿がしかるべき位置にあること、それは、正方形の中心に位置していたであろう。このようにして得られた復原が図4右図である。

重要な仮説は、2節でも述べたとおり、平安宮 北端の一条大路が17丈であるという点である. この結果、平安宮の北端から大極殿の中心までの 距離が完数200丈を取ることになる.大極殿の位 置は、平安宮の北端を起点として設計されていた. 朱雀門と昭慶門の距離が200丈に保たれている という条件のもとでは(昭慶門の位置が変わらな いという仮定のもとでは)、一条大路は必然的に 17丈の道幅にならなければならない. 17 丈は二条大路と同じ幅である. 平安宮の北側と南側が同じ 17 丈の大路で囲まれるのは,東西が同じ 12 丈の大宮大路,西大宮大路で囲まれる設計であるため自然な設計であろう. なお,現状では,初期平安京における一条大路が 17 丈だったとの発掘調査結果はでていないが,従来の復原どおり 10 丈であるとの検証もなされていない.

内蔵省の北端から 5 丈の道を隔てて築地があると見れば (これは平安宮の南端付近と同じである),平安宮北端は12 丈の大路であろう.この場合,偉鑒門は内蔵省とは別位置となる.偉鑒門と内蔵寮の位置関係が瀧浪説の反証に用いられることがあるが,図4右図の復原では問題点とはならない.

4 物差しXの検証

1 尺=28.1cm とする尺度の存在は、著者の知る限り、文献には見当たらない.しかし、1985年に発行された木器集成図録[11]に、和田廃寺から出土の7世紀の物差しの図版が掲載されている.本文中の解説では、この物差しの1寸を2.85、2.86、2.88cm と計測している.しかし、基準のスケールが付属する図版からの計測では、2.81cm 前後の推定値を得る.

次に、実際の建造物での例は、米田良三氏が物差しXと同じ尺度の存在を主張している[12]. 文献では、0.5 文単位での設計もあり得るとの立場から法隆寺の各建物の柱間距離を調査し、1 尺=28.1cm の尺度が使用されたとする結果を導いている. 本稿では、朝堂院に見られるように(長さが東西 60 丈、南北 120 丈)、建物全体の長さが完数を示すかどうかについて調べた[13,14]. その結果、物差しX での計測では、次のような完数値を得た.

- · 法隆寺金堂:東西 14.022m (~50 尺)
- ・法隆寺西院伽藍回廊:南北87.131m(~310尺)
- ・法隆寺講堂:東西 33.913m (~120 尺)
- ・法隆寺東院夢殿: 八角の横幅 11.27m (~40 尺) この他では, 唐招提寺の金堂と講堂が, それぞれ, 100 尺, 120 尺の完数を示す. 奈良時代の主要寺院 の重要な建造物に物差しXが使われているようで ある.

以上のように、朝堂院の復原で使われた物差し Xの仮説は、机上に留まるものではない.また、この仮説から導かれるのは、単に復原から得られる本当の寸法の解明という問題よりは、次節に示すように、都城の思想と密接に関わる問題を提起する.それは、平安京の中に見える正方形の階層構造の存在であり、これが、周礼から伝わる思想や天円地方の考え方と連携して、天皇がいかにして天下を見るのかという内容にも通じるのである.

5 正方形の階層構造

以下では、平安京という語句で、初期平安京を示すものとした。平安京の復原から得られた結果のうち、平安京に存在する正方形に関するものは以下のとおりである。

- 1) 平安京は一辺 1500 丈の正方形である.
- 2) 平安京の北端に位置する平安宮は, 一辺が 384 大と 383 丈で, ほぼ正方形となる (図3参照).
- 3) 大極殿院は、一辺40丈の正方形である.

平安京は一辺 40 丈の正方形を,平安宮の外全体で縦横に敷き詰めた都城であるが,この一辺 40 丈の正方形は,平安宮の中においても配置されており,大極殿院の他にも,朝庭や朝集堂院が一辺40 丈の正方形であることがわかる.

ところで、晋書「天文志」には「天圓如張蓋、地方如棊局」(天は円きこと張蓋(かさ)の如く地は方(しかく)にして碁盤の如し)という一節があり、これが天円地方の思想である。平安京に現れる正方形の階層構造は、古代中国における天円地方の思想に深く関連していると思われる。天空の様相を地上の都に写すというのが都城の思想である[15]。図6に、天と地との通信により、盤上遊戯の対局で神意を聞くイメージ図を示した。天の中心(北極星)と地の中心(大極殿)の通信により、天皇が天意を聞くという状況をここでは想定している。

さらに、その方形の都の全体を、手元で一望できる将棋盤に再現したものが将棋である。その将棋の対局を「天子南面」して見るのが呪術としての将棋であろうか。

6 おわりに

最後に、本稿で取り上げなかった興味深い課題について短く触れておきたい。本論文で述べた初期平安京仮説は、将棋史の問題以外にも、上述した法隆寺の物差しの問題のように、他分野の様々な問題解明に寄与するものと思われる。その影響の大きさが、初期平安京の正当性を示すものでもあろう。

1点目は、大嘗祭のときに大極殿の中に置かれる高御座の問題である。平安京は自身の方形の中に、平安宮、大極殿院、大極殿の方形が階層構造を作り、その階層の頂点として八角形の高御座が置かれる。この構造は、舒明天皇陵や天智天皇陵に見られる八角形の墳丘の構造に類似する。つまり、これらの天皇陵は、多層の方形壇があり、その一番上が八角墳なのである(上八角下方墳)。このことから、八角墳を高御座の八角形だけに対応づけるよりも、方壇を含めた八角墳全体と平安京との対応を考える方が適切なのではないだろうか。

さらに、図6に示した天と地との間の通信において、八角形を天の円形と地の方形を結ぶ仲介の形と見るならば、八角墳や高御座は、天と地の通信コネクタという意味合いをもつのかも知れない。こうした見方は、平安京の根本的な設計思想であると同時に、初期平安京を将棋盤として取り入れている大型将棋の設計思想でもあるだろう。ここに大型将棋の設計思想でもあるだろう。ここに大型将棋のもつ呪術の内容を見ることができる、将棋という遊戯は、地において選ばれたひとり、つまり、天皇が、天意を知るために使うという見方である。この動向を小説にしているのが、将棋の起源でしばしば問題とされる9世紀唐代、玄怪録「岑順」の物語かも知れない。この場合、対局を見ている岑順が天子である。

2点目は、天を写す都城は、将棋だけに使われているのではないという可能性である。囲碁については言うまでもないが、図3の平安京の復原図には、盤双六の盤[16]が見えているのである。平安宮の南側、朱雀大路を挟んで東西の12保がちょうど双六盤のマスに相当する。双六盤の中央の河は、天においては、天の河の銀河であり、地においては、朱雀大路であろう。駒の色は五行思想のとおり、東の青色と西の白色で、それらの駒は平

安宮から出発し、再び平安宮にもどるというルールに作られている.将棋、囲碁、盤双六という盤上遊戯における「三面」は大名家の婚礼調度であるが、もともとは、平安京と天皇に由来するのではないだろうか。

謝辞

本研究は 2018 年度中山隼雄科学技術文化財団 助成研究 B「将棋の起源および大型将棋の呪術性 に関する研究」(研究代表者:高見友幸) および, 2020 年度科研費:挑戦的研究(萌芽)「古代日本 の大型将棋に関する研究」(研究代表者:高見友幸) による助成を受けて行われた.

注記

- 1) 平城京の発掘調査で、2018年に十条大路の存在が確認されている。この十条大路までを平城京とみると、平城京は南北に10坊である。1坊が150丈の正方形で設計されているため、南北の長さは1500丈となる。尺度は、藤原京と同じく、高麗尺を用いる。
- 2) もちろん、当初の昭慶門が別の位置にあった とする復原も可能であるが、特段の知見を得るこ とはできない. なお、同じ位置とした場合は、大 極殿の中心が中御門大路の中心線と一致する.
- 3)建物に関連する寸法だけを換算し(たとえば,回廊の長さ),地面に関する寸法は換算不要である.

参考文献

- [1] 高見友幸,中根康之,原久子,摩訶大将棋の 復刻,大阪電気通信大学人間科学研究,Vol.19, pp.63-80, 2017.
- [2] 高見友幸, 摩訶大将棋の復刻 ~古代日本の

- 大型将棋に関する考察~,大阪商業大学アミューズメント研究叢書第19巻,2019.
- [3] 高見友幸,最近発見された摩訶大将棋に関する古文書,IR*ゲーミング学会ニューズレター,No.38,8-11,2019.
- [4] 高見友幸,中根康之,木子香,原久子,呪術 としての大型将棋に関する考察,大阪電気通 信大学人間科学研究,Vol.22,13-24,2020.
- [5] 山田邦和,「前期平安京の復元」京都都市史 の研究,吉川弘文館,2009.
- [6] 瀧浪貞子,初期平安京の構造 -第一次平安京 と第二次平安京-,京都市歴史資料館紀要, 1984.
- [7] 桃崎有一郎, 平安京はいらなかった, 吉川弘 文館, 2016.
- [8] 陽明文庫編集, 宮城図, 思文閣出版, 1996.
- [9] 家崎孝治,平安宮大極殿の復原『杉山信三先 生米寿記念論集』,論集刊行会,1993.
- [10] 寺升初代,平安宮の復原『平安京提要』,角 川書店,1994.
- [11] 奈良国立文化財研究所, 木器集成図録 近畿 古代篇, 奈良国立文化財研究所, 1985.
- [12] 米田良三, 建築から古代を解く一法隆寺・三十三間堂の謎, 新泉社 1993.
- [13] 文化庁監修, 国宝 13 建造物 I, 每日新聞社, 1984.
- [14] 法隆寺昭和資財帳編集委員会,法隆寺の至宝 一昭和資財帳1,小学館,1991.
- [15] 妹尾達彦, 長安の都市計画, 講談社選書メチエ, 2001.
- [16] 木子香,古代盤上遊戯盤双六の復刻,大阪電 気通信大学紀要人文科学研究,vol.22,1-12, 2020.

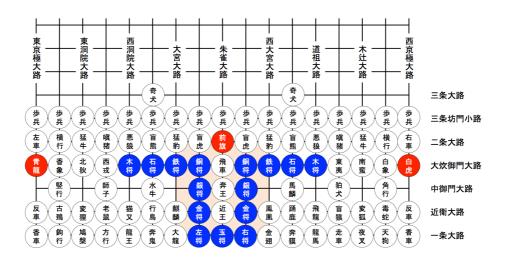


図1. 初期平安京の条坊と大大将棋の初期配置. 図の上方が南である. 青龍と白虎の駒の位置に注目されたい. 青龍は東の端, 白虎は西の端にあり, 五行と色彩の関係に合致している. 大大将棋は東西方向に駒を並べる将棋であることが推察できよう. 前旗の駒は朱雀門の位置に置かれている. 将の駒が平安宮の内側に沿って配置されるため, 左将から銅将までは縦に並ぶ. この点は将の駒が最下段に横一列に並ぶ他の大型将棋との大きな違いである. こうした大大将棋の特殊性には平安宮の位置との関連によるものであろう.

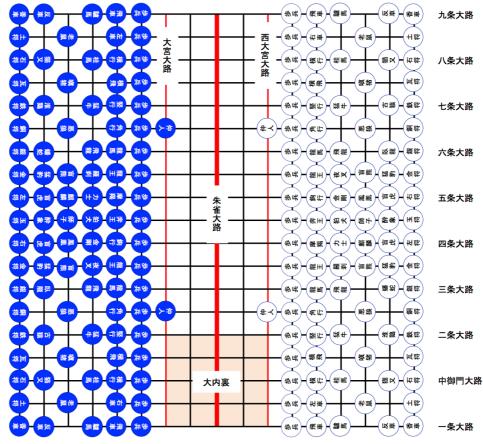


図2. 初期平安京の条坊と摩訶大将棋の初期配置. ただし、北辺のみを、後世の平安京より2町だけ短くした. 図では、南辺は九条大路を京極しており、初期平安京ではない. 通常知られる摩訶大将棋は、横に19駒が並ぶため、この段階の平安京を盤として使う.

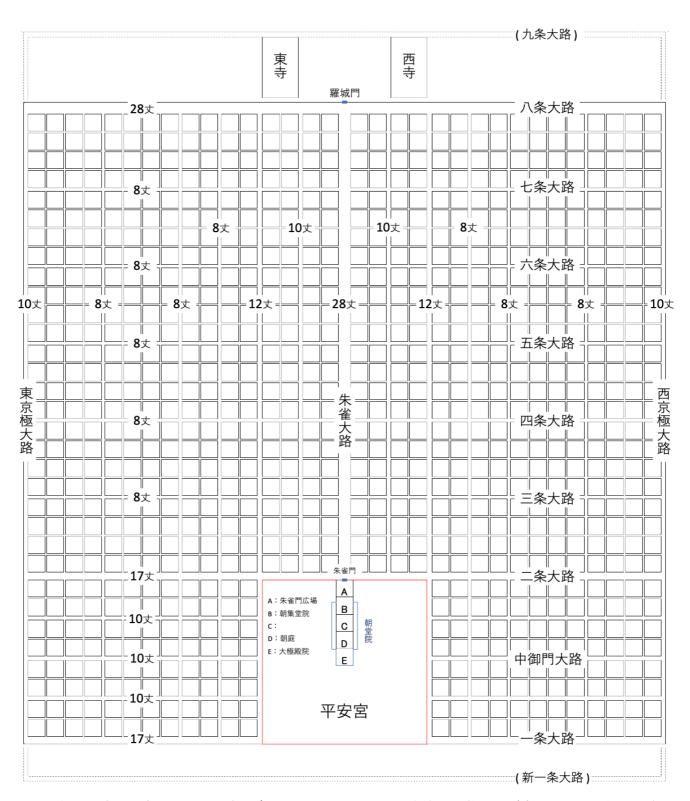


図3. 初期平安京の条坊. 図の上方が南である. 東西の幅は延喜式の記載とほぼ変わらない. 初期平安京では、南北の長さが短い. 北端は後世の土御門大路であり、この位置が一条大路だった. 南端は八条大路であり羅城門はこの大路に沿って立っていたと推測する. 羅城門の発掘調査は九条大路で実施されているがまだ見つかっていない. 東寺と西寺は平安京の京域の外に位置している.

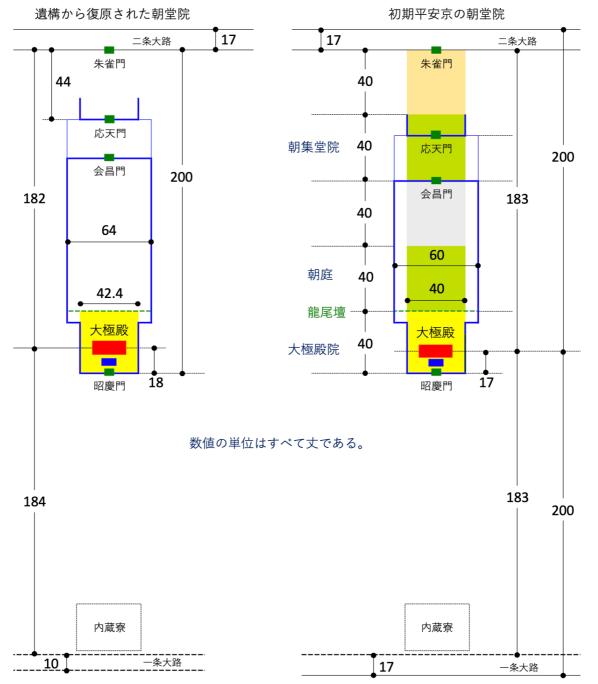


図4. 朝堂院の寸法, 左) 遺構に基づいて復原された朝堂院, 右) 仮説に基づいた初期平安京の朝堂院.

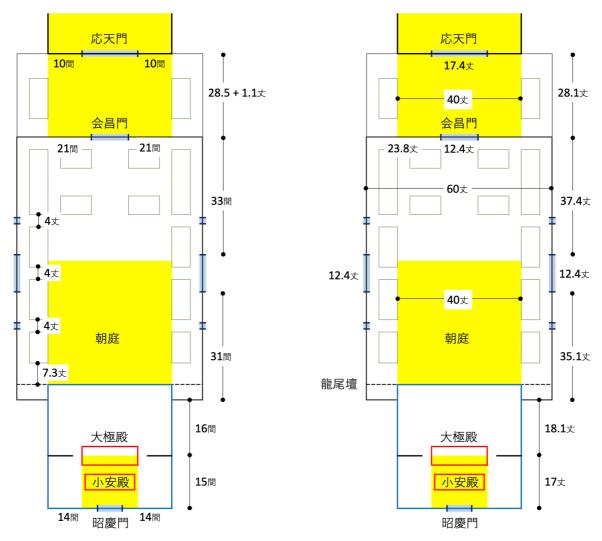


図5. 朝堂院の寸法. 左)陽明文庫本「宮城図」の記載値,右)物差し X の仮説と宮城図から得られた推定値.

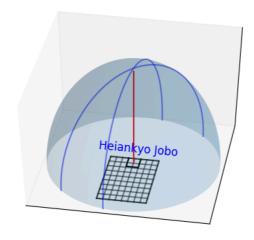


図6. 天と地との通信により、盤上遊戯の対局で神意を聞くイメージ図(妹尾達彦氏による「宇宙の都」を原図として、高見が作図).